



車に注意しながら通学する小学生



Q1 危険な通学路の整備を

A1 重要課題と位置付ける

山谷 仁 議員（新志会）

Q1 毎日危険にさらされ通学をしている児童・生徒が数多くいます。全国でも、村内でも交通事故や、連れ去り未遂事件等が起きております。毎年、学校や地域から提出される危険箇所や施設改善の要望には、重要課題と位置づけ取り組むべきであるがいかがか。

A1 毎年4月には、各学校、PTAから安全対策について要望が提出されています。今年度は61件が提出され、県道関係の10件、村道関係48件であります。

改善措置状況は、県道関係3件、村道関係12件が要望どおりになり、他の件については検討または措置不可能の状況になっております。

また、児童生徒の連れ去り殺人事件や誘拐未遂事件に対する安全対策は、情報を迅速にファックス等で連絡をしています。16年10月には雲石・滝沢教育委員会、盛岡西警察署が、「岩手っ子健全育成サポート制度」の協定を結び連携をして子どもの安全対策に取り組んでおります。併せて、村内における「子ども110番の家」との連携も図り、安全対策を重要課題として捉えていきます。

Q2 介護保険制度は4年を経過し、その見直しが行なわれているが、介護をなるべく受けなくて済むよう、その予防に力を注ぐことが必要である。「はつらつ元気館」の活用方法や「滝沢村シルバー人材センター」の育成等の課題があるが、その対策方法は。

A2 「はつらつ元気館」は利用者も増えてきており、また要介護度の改善がみられるなど、利用者にとって身体的効果があらわれています。生活の満足度や生きがい感、健康感等についても良好な評価が得られ、効果が得られています。

「シルバー人材センター」については、会員数も140人を超え、事業においても順調に推移しています。健康維持や生きがい対策としても重要と考え、今後も動向を注視してまいります。